



中南米 コロンビア



ボゴタ上水道整備事業

貯水池等の建設により水供給の安定をはかり、市民の生活環境を改善

【外部評価者】

オフィスみかげ合同会社 稲澤 健一

レーティング

有効性・インパクト	a	総合評価 A
妥当性	a	
効率性	b	
持続性	a	

本事業の目的

政治・経済・文化の中心である首都ボゴタにおいて、貯水池・ポンプ場の建設、監視・制御システムや維持管理用機材(車輛・重機等)の整備を行うことにより、浄水場の給水能力拡大・上水の安定供給および給水人口の増加をはかり、もってボゴタ市民の健康・衛生面の改善および同市の産業基盤の向上に寄与する。

借款契約概要

- 承諾額/実行額:
83億7500万円/63億7400万円
- 借款契約調印: 1991年12月
- 借款契約条件: 金利4.75%、返済25年(うち据置7年)、複合アンタイド
- 貸付完了: 2004年12月
- 実施機関名: ボゴタ上下水道公社(EAAB)

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

当初計画では2005年の平均給水量は211.3万m³/日と予測していたのに対し、2008年実績では129.9万m³/日と当初計画を下回った。これは、1990年代半ば以降に、1)実施機関による料金体系の改善およびボゴタ市役所による省水キャンペーンの結果、水の消費量が抑制されたこと、2)一般家庭に水道メーター機器を据付した結果、給水量をより適正に計量・コントロールできるようになったことにより、給水需要が減少したためである。ボゴタ市の人口は増加傾向にあるため、今後給水需要は再び増加に転じ給水量も増加すると見込まれる。一方、受益者調査からは水質・水圧については概ね良好であり、実施機関の給水サービスにも信頼が寄せられていることがうかがえる。本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、開発ニーズ、開発政策と十分に合致しており、事業実施の妥当性は高い。審査時には、バックアップ水源の確保・補完施設等の建設による安定的な上水供給の実現が求められていた。事後評価時も、引き続き安定的な上水供給・給水需要増への対応が求められており、本事業はその基盤として高い重要性を保持している。

効率性

本事業は、事業費については計画を下回ったものの(計画比92%)、期間が計画を大幅に上回った(計画比356%)ため、効率性についての評価は中程度と判断される。おもな遅延の要因としては、監視・制御システムについて請負業者が詳細設計を実施するターンキー契約が導入されたが、実施機関はその調達方法・プロセスに不慣れであったために、入札書類等の作成・調達手続きに時間を要したことが挙げられる。

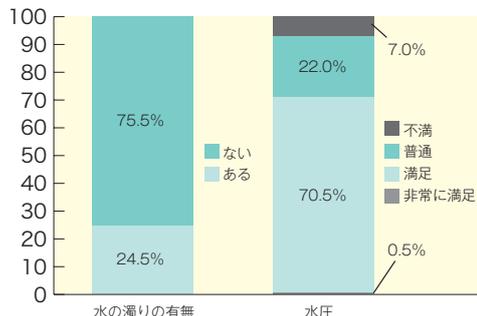
今後の展望(持続性)

本事業は実施機関の能力および維持管理体制とともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。

● 結論と教訓・提言 ●

以上より、本事業の評価は非常に高いといえる。監視・制御システムの調達の遅延については、実施機関の調達能力はある程度予測できたと考えられる。援助実施機関は事業開始から完成まで実施機関と必要かつ効率的な調整を行うように留意し、可能な限り早期に実施機関の調達実施体制・能力の確認と適切な取り組みを検討・実施すべきである。

受益者調査結果



※ 本件を含むすべての事後評価報告書は、JICAウェブサイトの「事業評価→事後段階の評価(事後評価・事後モニタリング)」からご覧いただけます。(URL:<http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/after.html>)